

認定校だより

早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 建築学科

早稲田大学建築学科は西早稲田キャンパス（東京都新宿区）にあり、建築学科の教育目標と概要はつぎのとおりです。

■教育目標と概要（学科共通のものを掲載しています）

早稲田大学の建築教育の伝統として、デザインを重視していることがあります。その中心には「設計製図」と「設計演習」があります。設計製図は「住宅」や「美術館」などの通常の設計課題で、設計演習は「光の箱」や「植物的建築」などの、特に感性を鍛える課題に取り組みます。同時にこれらの課題には平行して学習している専門領域を束ねる役割も期待されており、カリキュラムの芯として学部4年間を貫いています。

早稲田では専門領域の学習も1年生から開始します。1年生の必修科目としてすべての教員の専門分野と建築との関わり、あるいは実社会との関わりを学ぶオムニバス形式の「建築と建築工学」や「建築・都市と環境」、「建築と社会」を配し、建築分野の全体像を把握できるようにしています。1年生から少しずつ専門領域に触れさせ、その統合化の作業として設計製図に取り組む。このプロセスは内容を深め、レベルを上げながら各学年で繰り返されます。学部卒業前に取り組む卒業計画は、専門分野が異なる学生3名による共同設計であり、このプロセスの集大成ということになります。

学生は学部4年に進学すると、建築芸術分野（建築史学・歴史工学、建築意匠・計画学、建築都市計画学）と建築工学分野（建築環境工学、建築構造学、建築生産学）の各研究室に分かれて卒業論文に取り組み専門性を高めます。卒業計画ではこの専門性を超えて共同設計を行います。ですから3名の学生はそれぞれ異なった専門分野の研究室に属していることを条件としています。これは学問上の知識を統合化するというだけでなく、異なった分野の人材とコミュニケーションを取りながら進めるという訓練も兼ねています。これは全卒業計画、全卒業生がプレゼンテーションを行い、内容を教員に説明して審査を受けるという評価方針にもつながっています。



図1 大学の風景

#### ■建築積算士補に関する取り組み

早稲田大学建築学科では、意匠、建築史、都市計画、建築環境、建築構造、建築生産の6つの分野に21研究室（うち2つは連携する学科・コースの研究室）が存在し、建築分野全般に関する授業を行っている。建築生産分野は建築材料、建築構法、建築施工・建築経済の3分野で構成されている。

建築積算士補への取り組みは建築施工・建築経済の領域の授業として実施されている。なお建築施工に関する授業として、建築施工法、建築積算、測量、工事現場の見学、3Dコンテンツ作成、コンストラクションマネジメントなどの関係領域を網羅することを意識した科目構成としている。

建築積算士補を認定するのは建築経済という科目である。この建築経済では、建築積算の

基礎を、日本建築積算協会の建築積算士補テキストと、独自に作成した資料を併用しながら実施している。授業では、建築積算に関する講義と課題を各回でセットで実施している。建築積算の範囲としては「土工事」「躯体工事」「仕上げ工事」「仮設工事」「設備工事」を対象としている。加えて、建築生産のプロセスや建築コストの概算、VE、マンションなどの販売価格の算出の仕組みなどについても講義を行っている。



図2 演習課題に取り組む学生

早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 建築学科

授業名 建築経済 (3年生の担当科目)

担当講師 エキ田 晃一

試験開始 2018年度

建築学科 HP <https://www.arch.waseda.ac.jp/wa/>

大学 HP <https://www.waseda.jp/top/>